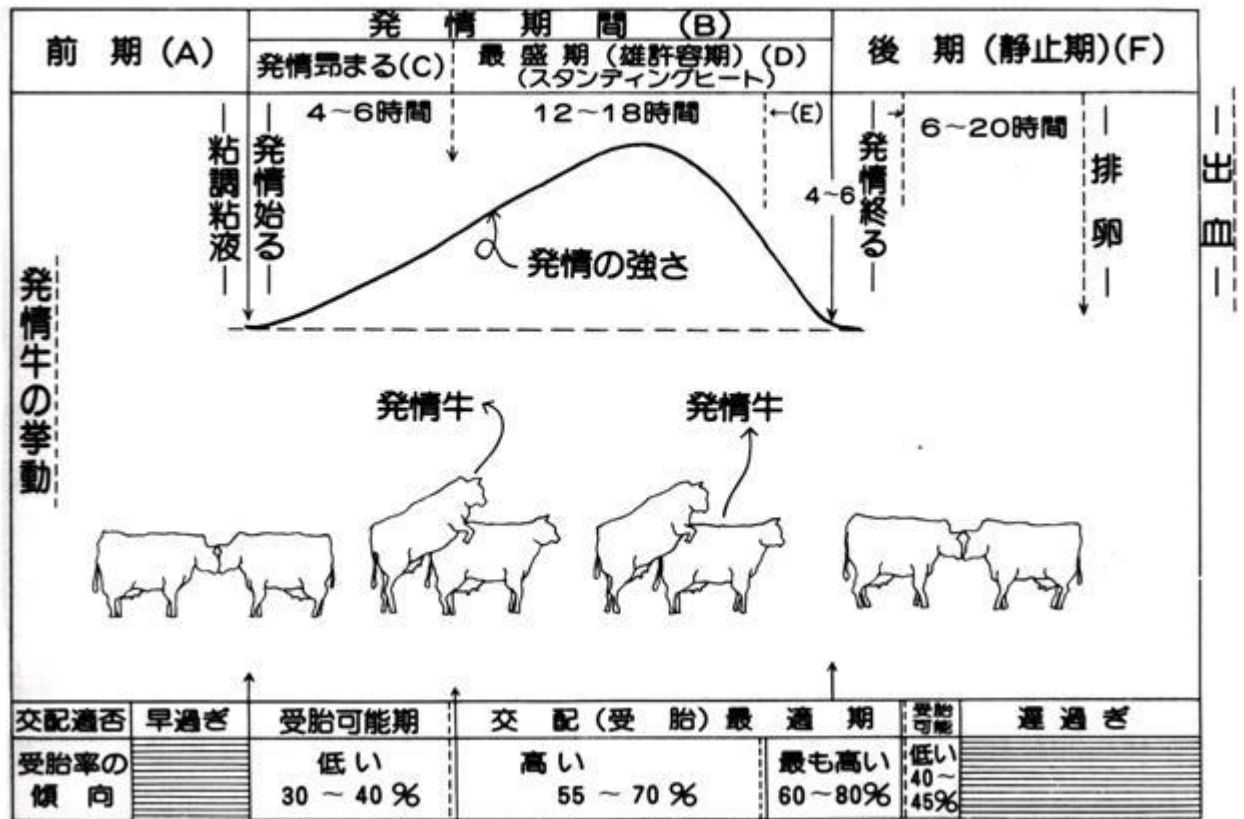


◆ 第3回 発情徴候の観察に努力しましょう(後)

前回(9月1週号参照)に引き続き、適切な時期に授精を行うことの大切さを考えてみましょう。
牛について発情が開始する時(下図の左側)と、発情徴候が消える時(下図の右側)には似た行動を示します。

発情徴候の変化 (栞田：1983)



発情徴候の一例は、運動量が増える(牛舎では立ったり、寝たりする回数。パドックでは歩き回るので歩数が増えるなど)、互いに鼻を擦り合わせる(人でいうキスに類似)、顎を他の牛の尻に乗せる(チンレスタイピング)、あるいは他の牛に乗駕を試みるなどの行動を示し、時には外陰部から糸を引く水のような粘液を出します。

畜舎内で飼育している場合は、牛の臀部や尾の裏側、尿溝や床にセロハン紙のように光る粘液が見られるようになります。

さらに尾の付け根(尾根部)や腰角(ようかく)の毛が逆立っていたり、毛が擦れて血がにじんでいたりと、尾の力が弱く、尾根部を手で軽く触ると尾を横に動かす動作が見られます。

この頃が人工授精の最適の時です(発情開始から、10~20時間目です)。

しかし未経産・神経質・治療で痛い思いをしたことがある場合などは、牛によって行動が異なりますので、牛の特徴をしっかりと記録しておくことが大切です(個体の記録は、牛群の管理で欠かすことのできない項目です)。

今日のダイヤモンド…寝る前に静かに牛の後ろをライトで照らして見てください。光り輝くダイヤモンド(きれいな粘液の排せつ)はありませんか?

外陰部の色や付着物、乳房・乳頭の腫れや色に異状はありませんか?